八月二十二日　夕刊

但日曜祭日発日休
一ケ月二十五錢
一部二錢
廣告料一行四十錢
廣告料一行四十錢
振替貯金口座仙台一二三
發行所 福島縣平町大字平二三
發行兼編輯人 牛谷政雄
新いわき新聞社

四倉繭市場は廿七日から 興味視される初値

昨年の高値は十八圓九十錢 平均十七圓であつた

四倉繭市場では初秋繭の出廻りを見込む來る二十七日から開場の筈であるが晩秋繭まで引續く十月十五日に及ぶ二十日間の取引豫想は二万七千貫で右に對する融資額は申込み當時繭價の平均を三十五圓程度に見たので六萬三千圓を借入れたが現在の糸價好況から豫想される當期の繭値は貫當四十圓を下るまいと云はれてゐるので十万余圓を要し之れを昨年同期に於ける

初秋繭一萬二千五百二貫三百四十匁　晩秋繭一萬四千六十貫七百三十匁　合計二万六千五百六十三貫三百七十匁

の總價額初秋二萬三千二圓十五錢（平均貫當十六圓五十錢）晩秋三萬七千三百二十四圓十四錢（平均貫當二十六圓八十十錢）合計五萬七千三百五十六圓二十九錢に比較せば實に倍價の高値であつて昨年の初秋繭取引（八月二十一日）の初相場一貫目高値一圓八十九錢最低十五圓四十錢、平均十七圓の踏出しから漸次尻上りを呈して十月七日の三十三圓を縣下第一の最高値と云はれる養蠶家泣かせの繭安より見て如何に當業が救はれるであらうかを喜ばれてゐる

四倉港第二期工事 實現の機運濃厚

政府關係筋の有力な支援 地元民猛運動を開始

四倉町民多年待望の四倉漁港築港工事も愈々竣成期近く目下第一船溜場の浚渫に全力を注いでゐるが完成豫定年度の三月初旬までには港内の浚渫船付場魚揚場等一切の工事が完成する筈であるが此の工事と第一期とし現漁港を更らに弧磯まで防波堤を延長し北方への一大擴張をなさない限り漁港としての利用價値も薄いので同町當局では來四月の新年度から直に第二期工事を續行名實ともに東北随一の大漁港たらしむべく擴張計畫を樹立し縣當局に對し猛運動を起してゐるが過般同漁港の實地調査を試みた堀切委員長以下東北港灣振興委員會も同町の計畫する第二期の擴張工事を施さなければ眞に漁港としての價値なしとして同町計畫に賛意を表して居り農林省の調査技術官一行も此の計畫は當然の要求である事を認めてゐるので同町は此れ等關係方面の有力な支援を期待し愈々第二期擴張計畫の本格的運動を開始する事になつた即ち第二期擴張工事の主眼とすると ころは北防波堤を更らに北方に延長築造して港内を現在の約三倍に擴張完全なる浚渫により港内を五米以上十一米の水深とし大型漁船の入港收容に備える事で此の第二期工事實現後は百五十噸級の大型漁船百隻を收容し得る文字通り東北第一の漁港が出現する譯で既報縣當局の意嚮も縣内漁業の振興策として遠洋漁業奬勵に大型漁船建造補助案その他を提げて縣下漁業が從來の沿海漁業から遠洋漁業に急角度の轉開を試みんとしてゐる折柄だけに大型漁船の收容は必須的のものであり四倉港の大擴張案は縣の大型漁船築造奬勵の方針と併行非常に期待されてゐる

地方米價の新高値

壹俵十一圓四十七錢

昨二十一日の俵米共同販賣 興味視される次回相場

石城郡聯に於ける昨二十一日の俵米共販は各入札者の好買氣に加へて出荷割合に少なく四百六十九俵に過ぎなかつたが爲め前回に比して實に二十一錢高を見る新高値を以て取引されたが米價今後の豫想は大体これが昂騰の頂上でないかと觀測する向が多く一時不安氣に懸念を一掃され此の分なら大丈夫と云ふところまで臨んで居り是れ以上に高値をたどらうとの好條件を考へられすと云はれてゐるが次回相場がどう現はれるかを興味視されてゐる各倉庫の出荷及び當日の取引値は左記の如くであつた

平八六俵（十一圓卅錢）平窪四五俵（同値）小川三五俵同上　草野信用六七俵（十一圓十八錢）鹿島二一俵（十一圓二十一錢）勿來七三俵（十一圓二十六錢）大野一〇二俵（十一圓四十七錢）飯野二五俵（十一圓三十一錢）草野農會一五俵（十一圓八錢）

劍道銃劍術と射擊競技

石城在郷聯合分會では來る九月一日郡内四十分會から劍道並に銃劍術及び射擊の選手各二名づゝを擧げて平商業校の道場と神谷村中神谷の聯合分會射擊場に於て競技をなすとした同警部補本署に急報更らに再檢視を行つたが死後十餘時間を經て居り多量の海水を呑んでゐる處ろから絞殺後海に投じたものと見た最初の判定は崩れ更らに首に卷きついた荒縄も非常に弱いもので絞殺出來る程のものでもなく背部の外傷も海中岩によつて生じた死後のものであるらしく死人の兩眼は失明、足も可成重症の脚氣に侵されてゐる點から病氣を悲觀した投身自殺說有力となり目下死体の身許調査を急いでゐる

手斧を揮つて亂入 兄弟二人を一擊す

恐ろしい顔と言はれ激昂 昨夜豊間の慘劇

豊間村大字豊間字愛磯居住土工千葉助吉（四六）は昨二十一日午後九時頃同村字柳町漁夫冬澤倉吉（三二）方に双渡り三寸餘の手斧を持つて亂入居合せた倉吉の眉間を手斧の峯で一擊更らに戸外に逃走せんとした倉吉の實弟平次郎の背後から件の兇器を叩きつけ右足大腿部に重傷を負ひ兩名ともその場に昏倒するのを見濟して悠々逃走、程經て近隣の人々が發見、附近醫師の應急手當を求め直ちに此の旨を届出たので平署で活動の結果間もなく加害者助吉が自宅に潜伏してゐるのを發見逮捕した、被害者兩名は割合に輕傷で各れも全治三週間を要する見込である、兇行の原因は同日午後四時頃所要で江名に行つた弟平次郎が知人宅で『世の中には恐ろしい面付きの奴もあるものだ……』と云つたのが同家に居合せた助吉の耳に入り俺れの面に難癖をつけたと激昂し平次郎と口論したが一まず歸宅後前記の兇行に及んだものと判明した

他殺？こ見られた江名の怪溺死体は

結局自殺説が有力 水泳中の少年等が發見

昨二十一日午後三時頃江名町江名港内突堤附近の海中にポツカリ浮び上がつた四十才前後の男溺死体があるのを水泳中の少年等が發見大騒となり直ちに死体を引上げ小名濱派出所菊地警部補が檢視の結果死体の首に細い荒縄が卷いてあり背後にも外傷があるので他殺の疑ひ濃厚なので重大視

美貌の人妻家出 湯本實兄宅に立廻

裏面に戀愛關係伏在か

伊達郡保原町大字保原生れ當時東京市向島區吾嬬町東四丁目居住美容術營業山澤光雄（四九）内縁の妻熊坂フヨ（三七）は去十二日午後二時一寸外出して來ると告げたまゝ家出行方を晦ましたので夫光雄は八方捜査の結果去二十日湯本町入山字台之山に居住してゐるフヨの實兄熊坂留次から夫婦別れをして歸つて來たと稱し妹が突然歸宅したのでその不心得をさとして東京へ歸したとの便りがあり未だに妻が歸宅しないので或は平町あたりに潜伏してゐるのではないかと見て二十二日光雄から平署に捜査方を願ひ出た家出の原因はフヨは巧みな美容術士として知られ殊にその美貌から男客との間にも屢々變な噂を立てられてゐたので夫光雄が注意したのを不快に思ひ遂に家出を決行したものらしく裏面に戀愛關係でもあるのではないかと見られてゐる

トラックで少年轢傷

飯野村大字上荒川大河原運輸部運轉手小口幸一（三五）は二十二日午前九時半頃貨物自動車を運轉平町地内に向つて疾走中同村谷川瀬縣道にさしかゝつた際突然路上に躍出し車前を横切らうとした樋口一郎（一〇）を轢倒し足部に全治二週間を要する轢傷を負はせた

漁船機關手會

小名濱町漁船機關手會總會は二十五日午後一時から同町福田屋旅館にて開催役員改選その他を協議する

松井博士述 一票汚れて國汚る（三）

中央報德會

若し夫れ有權者の方面に至つては由來日本人は傳統的に政治に冷淡であると云ふことは現代のみではないのであるは甚しきは被治者は政治及び政治家に對し反感と恐怖とを抱いたことさへあることを見逃すべからざる事實であつて兎角政治と民衆とは殆んど沒交渉であつたことを忘れてはならない、立憲政治の今日ですら、一般國民は政治家と云へば徒らに大言を吐いたり、私利を圖つたり政爭に耽つたりするものと即斷し、選擧の時徒らに選擧の外形上のみに因はれず、もつと選擧民として選擧の根本義に徹底せしめねばならぬこと故、その任務は頗る多岐である、

今秋には神奈川島根等七府縣を除き全國一道三十府縣に於て府縣會議員の選擧が行はれるが其の成績の如何は忽ち來春の衆議院議員の選擧に至大の關係を有する、今日は實に選擧革新上最も重要の時期に際會して居るのであつて切に全國民諸君の奮闘を心から希望して已まない……（完）

郷土史抄

故濟先生の遺影を偲ぶ　十四

（瀧川家の史料採訪）

鮫川漁史

二十九日、官軍は更に湯長谷館を拔き、七月朔日、進んで平城を攻め、三日、大總督府は正親町總督に代へるべく參謀四條を以て、仙台追討總督府と爲した。又是の日、參謀河田景與は兵を率ゐて平潟に至り、官軍の精鋭は偖々加はつたのである。

十三日、木梨、渡邊二參謀の激令で平城を拔き、海道官軍は之に暫らく駐まつて諸口を分等し、是より山道白河に官軍と相呼應して、一路仙台を目した。當時青年に齋しい濟が、先輩の桑原、北鄕等と共に、松井亡き後の歸順、降伏の運動に活躍した唯一の吏料は、左に掲ぐる一端で充分知られるではないか。

七月廿日晴、北鄕、桑原同道、本宮村地藏出立、平城下山崎屋庄八へ投宿、湯長谷落杉山、中野に逢、

同廿一日晴、官軍附屬某氏山崎屋へ訪來、酒を供す、饗爽なり、十一屋參謀御宿へ罷出、北鄕同行、願書差出、僕庄藏歸、

廿二日晴、御使番へ願書差出、此日地藏院休證上人、澤田、坂田附添來る、庄藏も來る、午餐して上人、坂田歸、七ツ過御使番へ願書之趣意を促す、夜使番より被呼出、泉町舉動を問はる、湯長谷茂原肇、原田源吾同宿、

同廿三日晴、曉結髮、因落出兵を見る、此日同志謹慎御免に相成、

廿四日晴、朝御使番へ罷出謹慎御免相成候、御達書する、泉の字の印付、他行致し候樣之事もある、此日諸隊三春邊へ操込、午餐致し本谷へ歸り候、仕度致し候處、御使者より被申渡候へ御用有之趣に而合戸宿迄罷出候樣御沙汰候間、澤四郎平殿より印鑑下り、人足壹人相連、合戸宿參謀本陣へ七ツ半過著　（東征日記）

斯くして濟等は木梨、渡邊參謀に附屬して、仙道口に從ふことになり（前節と合着）海道の將師は新たに來たる、即ち同月二十二日、四條總督が小名濱に上陸し、又是の日、參謀河田景與は平潟に著き、中村を降し、尋いで奥羽越藩の盟主たる仙台を降した。

◇一般印刷物も御引受致します
新いわき新聞社印刷部

醬油味噌
たひら正宗
鰹節食料品
明治生命磐城代理店
山崎與三郎
電話一營業部本店二一七〇番

お醬油は……ヤマフル
鹽屋
山崎合名會社

清爽簡易な
サンマードレス
……婦人用とお子さん用……
特價品豐富陳列
ヤルツ
平四一四〇番

債券公債両替金融
多田井質店
平町大工町　電話五九一番

（磐城共濟病院）福島縣平町電六四一
內科　院長　醫學博士　石山謙郎（電話六四一番）
小兒科　部長　岩手醫學士　佐藤尙輔
產婦人科　副院長　醫學博士　五十嵐雄二（電話三七〇番）
外科耳鼻咽喉科　部長　醫學士　大町久藏
皮膚泌尿器病科花柳病科　醫學士　前澤正（電話一七二番）
X線療科　醫學博士　石山謙彦郎
物療科　技術員　石本孝平
藥局　藥劑師　吉本山寶雄
事務長　鈴木雄
（毎日午前八時より午後十時迄診療）
◎…病室完備…入院隨意…◎

ガソリン
モビール油
日本石油株式會社
特約販賣
油問屋
關內油店
磐城平　電話長16
支店　茨城縣關本驛前　電話長平潟七三
支店　郡山市驛前郵　電話長三二八八
油槽出張所　平町田丁目　郵便局前

マグネトロン
百萬の富より健康
此新療法で病弱を御試しなさい
『治療代』…は當分一回三十錢として居りますが御家庭の事情により割引も施療も致します
嘘か實か百聞一見御試し下さい
治療所　日中は城山薬園（電話一〇九）日没後は一丁目自宅（電話四七〇）
醫療士　飯田近治

鼻の諸病に快鼻湯　有効保證
本劑は漢法醫の方劑で鼻病の爲め種々の外用藥並に內服藥を用ひ全治せざる方々及び手術後再發され方々も本劑の服用により快癒された喜びの禮狀が各地から參つて居ります
効能　蓄膿症、慢性急性鼻加答兒、鼻汁多過症、頭重、肥厚性鼻炎、その他鼻骨彎曲症、並に中耳炎に神効の賞讃を受く
（快鼻湯）製劑販賣元　水野藥局　磐城平町一丁目（電話六九九番）振替口座仙台（八八七六番）

スペインG・H・N元詰
ゴルフボートワイン
甘味葡萄酒　1・10
婦人の方には少し水を加へて召し上ると風味一そう佳良です
（平2）　西村屋藥舗　（電3）

正確なる寒暖計　体温計（各種）計量器指定販賣
平町五丁目角　山野邊藥局

耳鼻咽喉科專門
醫學士　鈴木正男
平町田町（電話五八番）藤田女學校前
入院應需　鈴木醫院

農村の更生振興に
天然加里肥
最も適應する作物！
蔬菜　馬鈴薯　里芋　しやうが類
◇茄果類ではトマト茄子の如き比較的病害に弱い作物に施用すれば抵抗力を與へ落果を防ぎます
天然加里肥は酸性でないから
◇如何に施用しても土壤を惡變する虞は絶對にありません
一俵　廿五錢（大量取引は特に割引致します）
製造販賣　金成國雅　平町鎌田　電話六八八番
貨物自動車（トラック）の御用命に應じます

新聞紙
日曜日
アルバイト
金屋商店